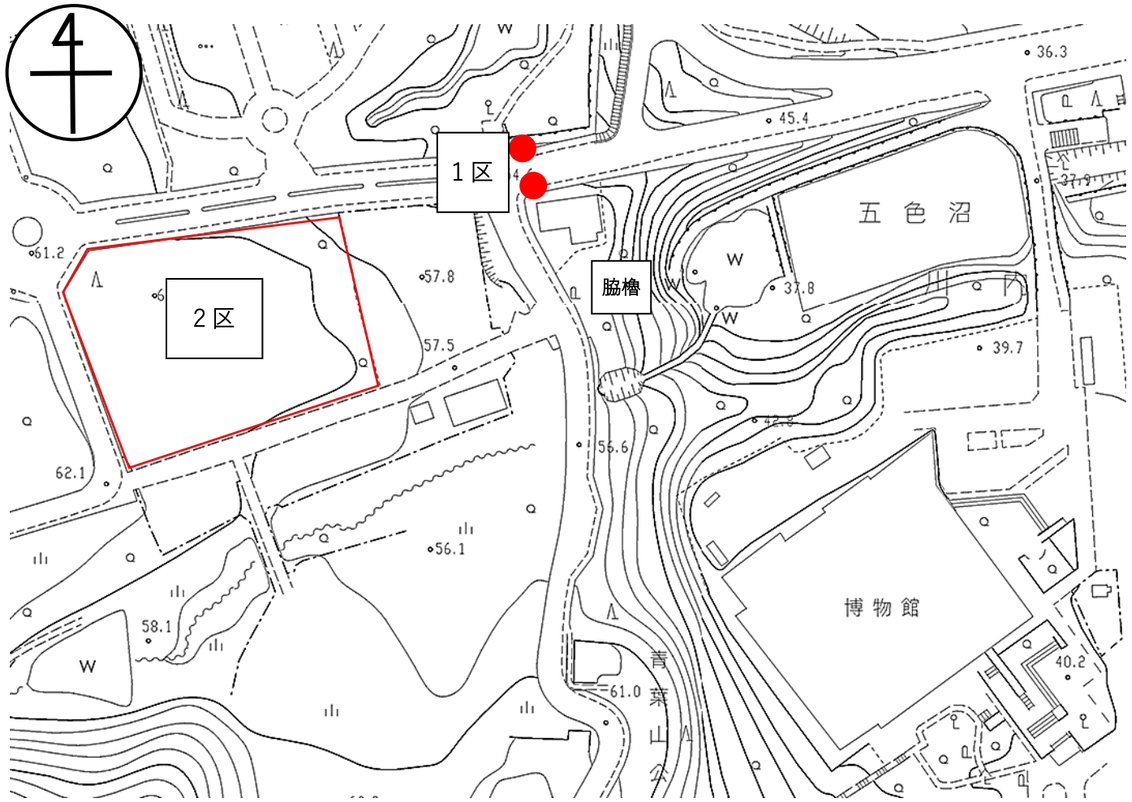
資料２

令和８年度仙台城跡発掘調査の目的と成果について

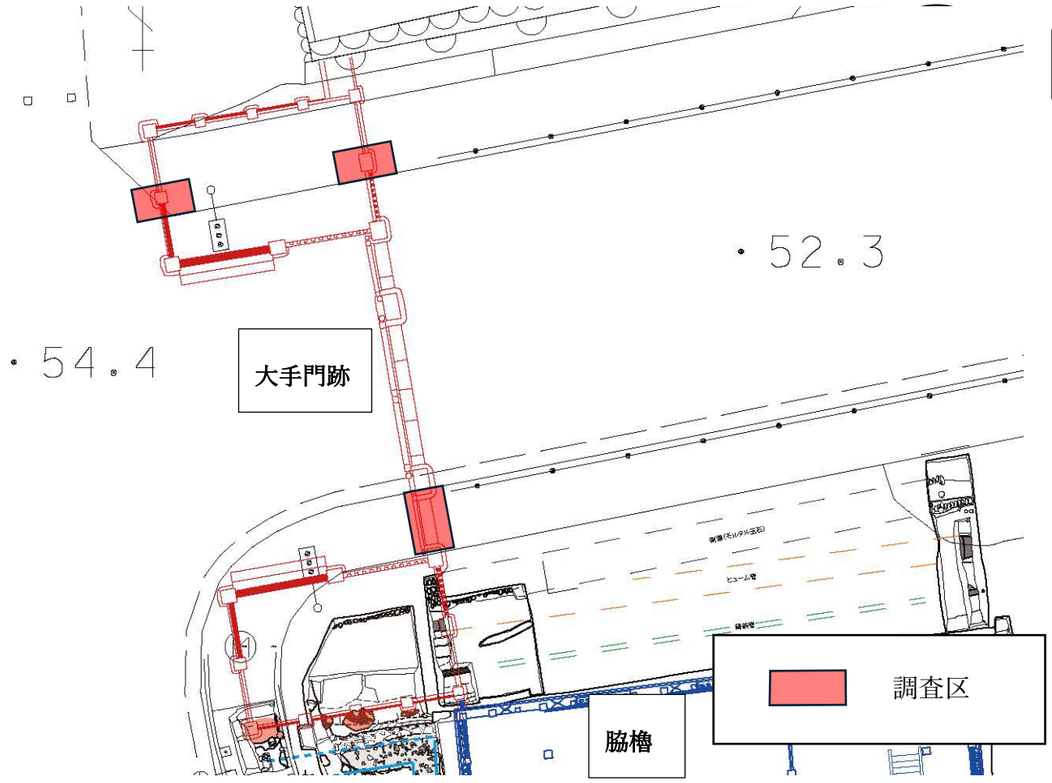
【１】令和８年度仙台城跡発掘調査　目的とスケジュール

第１表　令和８年度仙台城跡発掘調査概要

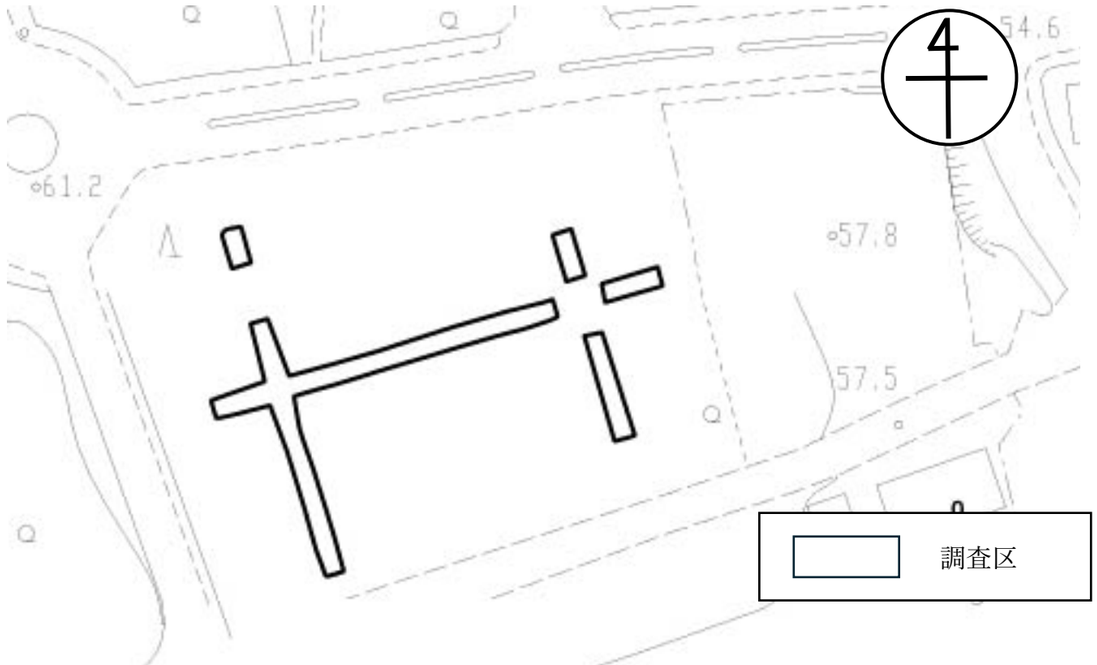
発掘調査	大手門跡および周辺発掘調査（第４次）
目的	『史跡仙台城跡整備基本計画』（以下、「整備基本計画」）の事業計画として実施する。大手門および周辺発掘調査は、令和５～７年度の成果を踏まえて、大手門周辺の遺構の残存状況を確認するため継続して遺構確認調査を実施する。
予定期間	令和８年６月１日～令和８年11月30日（予定）
調査面積・調査内容	合計：1113㎡ **大手門および周辺発掘調査**（１区：48㎡、２区：1065㎡） １区：大手門脇櫓（再建）の北側に位置する。大手門の柱が推定される地点について、礎石跡の残存状況を確認する。 ２区：大手門跡の西側に位置する。仙台城史跡等の遺構確認調査を実施し、遺構の分布状況および後世の改変状況を確認する。



第１図　調査区位置図（1/2000）



第２図　１区配置図（1/200）※予定

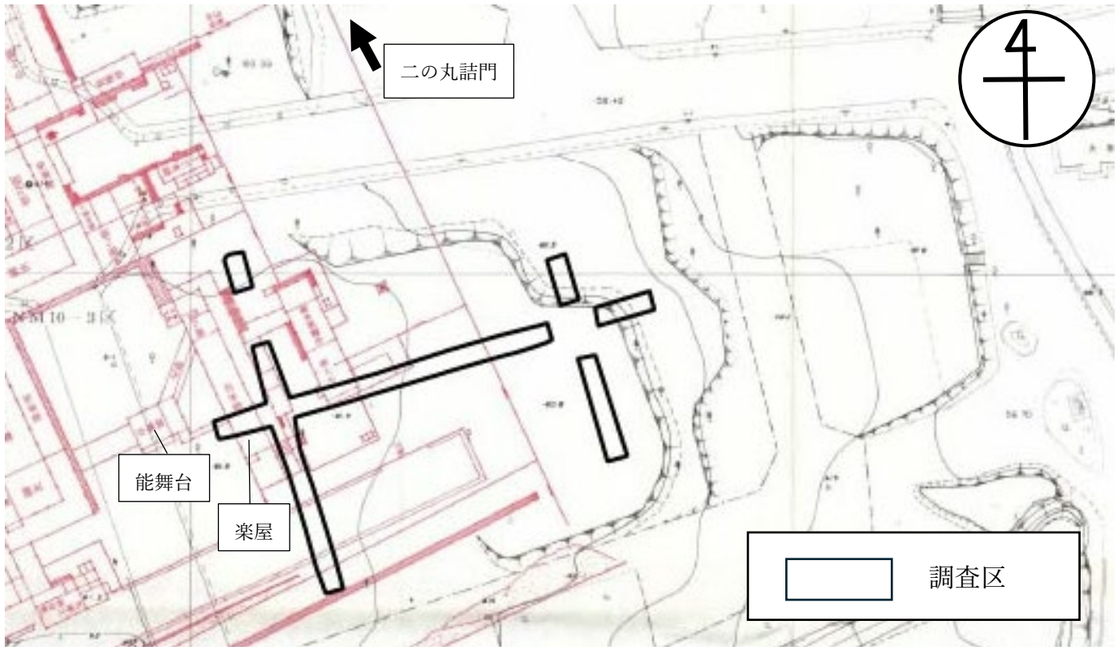


第３図　２区配置図（1/1000）

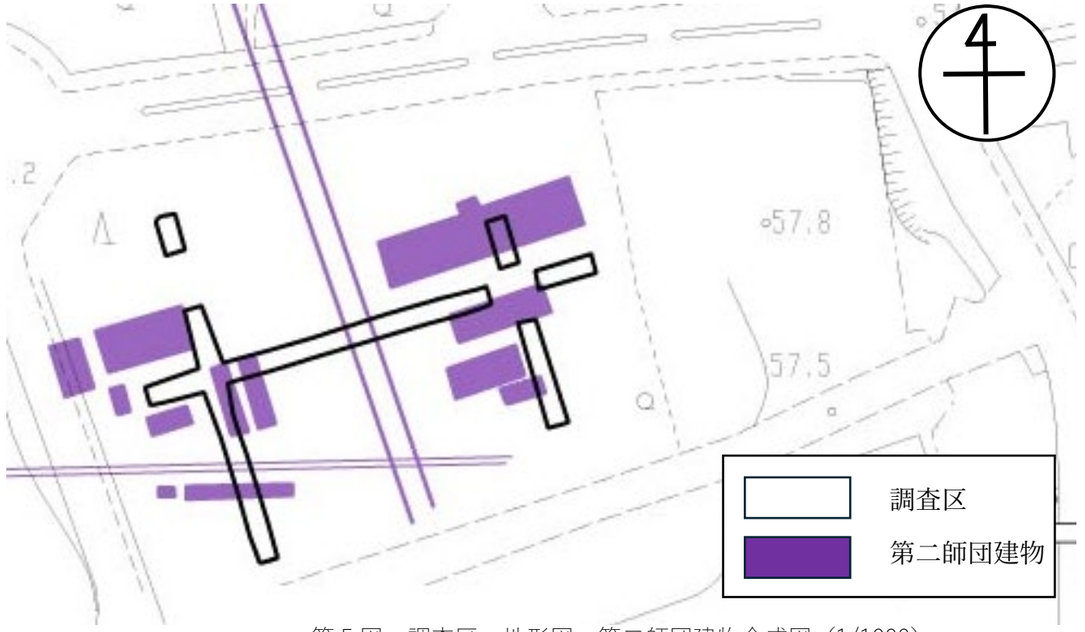
【2】調査区2区について

第2表　2区周辺の変遷

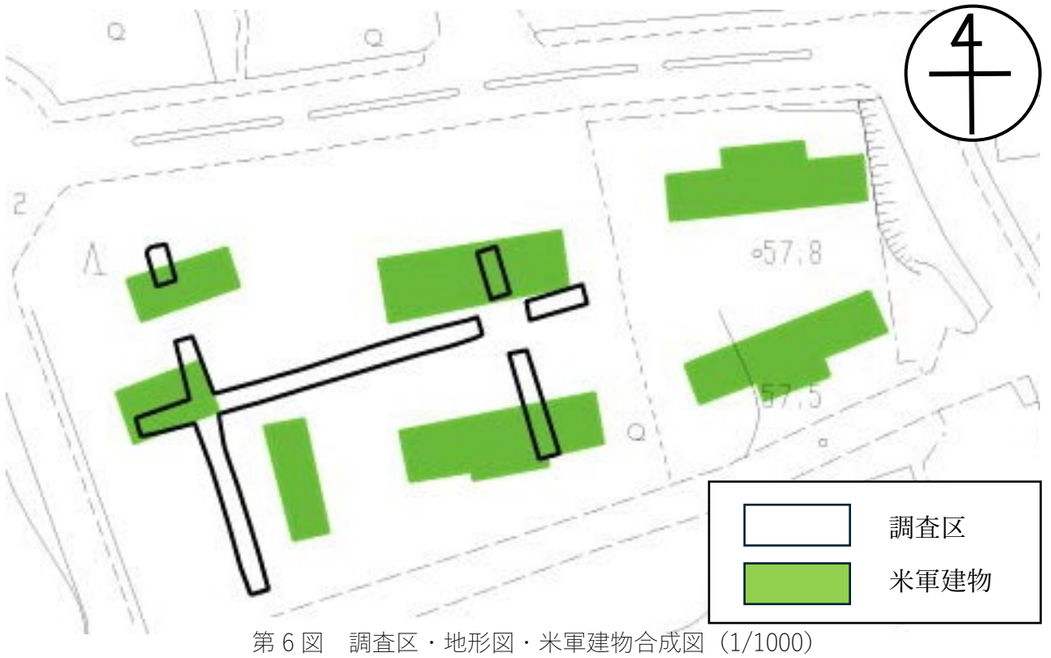
時期	年号（年）	西暦（年）	出来事
二の丸造成後	寛永15	1638	二代藩主伊達忠宗により、二の丸普請が開始される
	寛永16	1638	二の丸完成
	元禄年間	17世紀末	二の丸が大改修され、中奥が拡張される
	文化元	1804	雷火のため二の丸全焼
	文化2	1805	九代藩主周宗、二の丸再建に着手
	文化6	1809	二の丸再建完了
近代以降	明治元	1868	仙台藩降伏
	明治2	1870	版籍奉還に伴い、二の丸に勤政庁を設置
	明治4	1871	東北鎮台（後の仙台鎮台）を仙台城二の丸に移される
	明治15	1882	仙台鎮台（後の第二師団）の失火により二の丸建物は消失し、その跡地に陸軍第二司令部が建てられる
	昭和20	1945	7月仙台空襲
	昭和21	1946	第二師団が使用していた二の丸跡が米軍駐屯地になる（キャンプ・センダイ）



第4図　調査区・地形図・二の丸建物合成図（1/1000）
（東北大学埋蔵文化財調査年報9：付図1を加工）



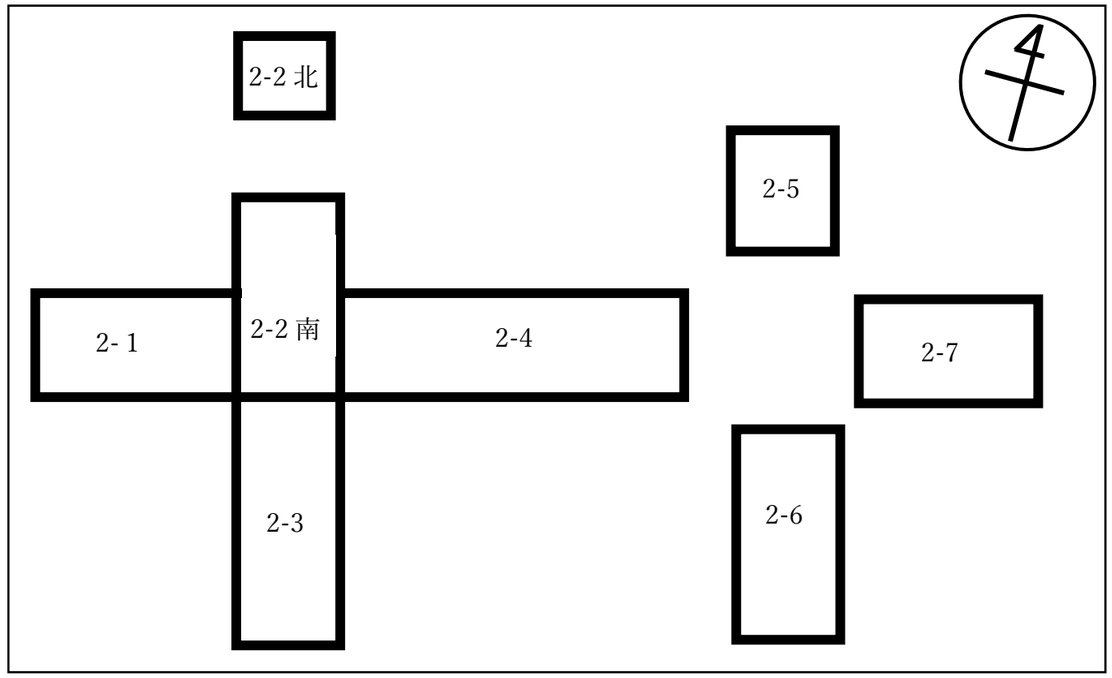
第5図　調査区・地形図・第二師団建物合成図（1/1000）
（東北大学埋蔵文化財調査年報9：16図を基に建物位置を推定）



第6図　調査区・地形図・米軍建物合成図（1/1000）
（国土地理院の航空写真等を基に建物位置を推定）

【3】調査区 2 区発掘調査経過報告

〈調査概要〉
・2 区を第 7 図のように区分けをした。
・現在 2-4 区以外の調査区を精査中である。
・精査中の 5 区以外の調査区で、コンクリート構造物、レンガ構造物、埋設管などが多く検出されている。いずれも近現代のものと考えられる。位置関係から米軍施設に関連するものが大半と考えられる。
・調査区の大部分を上記の遺構が占めているため、今後は適切な箇所を部分的にさらに掘削して下層を調査し、近世の遺構検出面の確認をする予定である。



第 7 図　平面模式図

●2-1 区
・コンクリート構造物 4 基（基礎、桝など）、レンガ構造物 1 基、埋設管 2 本が検出された。
・上記の構造物等はその大半が米軍建物に関連するものと考えられる。
・北西部では近世の整地層と考えられる層が確認され、礎石と考えらえる石材が 2 石検出された。
・GL-0.8m で地山と考えられる層が確認された。
・今後部分的に下層を調査する予定である。


写真 1　調査区全景（東から）

●2-2 北区
・調査区南側半分は攪乱されている。
・溝状の掘方 3 条が検出された。米軍建物基礎の痕跡と考えられる。
・GL-0.7m で整地層と考えられる層が確認された。
・今後部分的に下層を調査する予定である。


写真 2　調査区全景（南から）

●2-2 南区
・埋設管 4 本、コンクリート構造物 1 基が検出された。
・上記の構造物等はその大半が米軍建物に関連するものと考えられる。
・今後部分的に下層を調査する予定である。


写真 3　調査区全景（南から）

●2-3 区

・コンクリート通路が南北方向に検出された。
規模は幅約 1.4m、検出長 24m である。調査区の北東部、南西部にさらに延びる。
一部は西側に枝分かれする。
・米軍建物に伴う通路と考えられる。
・今後精査を進める。



写真 4　調査区全景（南から）

●2-5 区

・遺構は検出されなかった。GL-2.45m までは近現代の盛土と考えられる。
・⑭層は現代遺物が含まれず、瓦が出土した。近世以降の堆積土と考えられる。
・⑮層以下は遺物が含まれず均質な粘土・シルトであり、地山と考えられる。



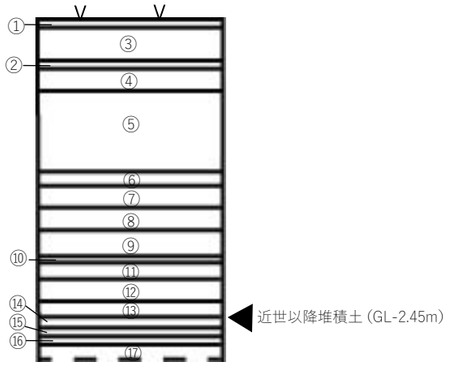
写真 5　調査区全景（南から）



写真 6　調査区西壁土層断面（東から）



写真 7　調査区西壁下層土層断面（東から）



第 8 図　2-5 区断面模式図（1/50）

●2-6 区

・コンクリート構造物 7 基（基礎、桝等）、埋設管（鉄管、コンクリート管、土管）9 本、
レンガ構造物 1 基が検出された。
・上記の構造物等はその大半が米軍建物に関連するものと考えられる。
・今後部分的に下層を調査する予定である。



写真 8　調査区全景（南から）



写真 9　調査区全景（北から）

●2-7 区

・埋設管 3 本、コンクリート構造物 1 基、レンガ構造物 1 基が検出された。
・調査区南西部で瓦が敷き詰められた焼土が検出された。
・今後部分的に下層を調査する予定である。



写真 10　調査区全景（西から）



写真 11　調査区全景（東から）